

平成26年度 学校評価に係る自己評価書

学校名 北海道おといねっぶ美術工芸高等学校

1 本年度の重点目標

2 本年度の経営方針

<p>(1) 基本的生活習慣の確立と学習習慣を定着させる。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの個性を生かした造形教育を推進する。</p> <p>(3) 学校生活・寄宿舎生活をとおして、キャリア教育を推進し社会性を育成する。</p> <p>(4) 魅力ある教育活動の発展充実を目指し研修や実践に努める。</p>	<p>(1) 創作活動をとおして学ぶ喜びを体験し、可能性を引き出し伸ばし、確かな力を付ける。</p> <p>(2) 他を思い理解し、共に学び感動が溢れる学校生活をとおして、豊かな人間性を育成する。</p> <p>(3) 全道唯一の工芸科として魅力ある教育活動を実践し、質の高い美術工芸教育を推進する。</p> <p>(4) 生徒・保護者・地域の信頼と期待に応える、地域に根ざし開かれた学校づくりを推進する。</p>
--	---

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	改善の方策
学校経営	(1) 創造力の育成と人間力を高める教育を実践し、夢を語りあい活力を育みあう学校づくりを推進できたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを定着させ、反省を次年度に生かす仕組みと確立する ・分掌体制の改善
	(2) 高大連携教育・国際理解教育、地域連携教育等により教育の質的向上を図れたか。	B	B	
学習指導	(1) 生徒一人ひとりの実態に即した学習指導により、基礎的基本的学力の定着や向上をさせることができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科研修時間の確保 ・教務主導による学習指導の底上げに向けた協働的取り組み
	(2) 多様な生徒に対応するための教材の工夫改善や指導方法・評価方法の工夫により、生徒の自ら学ぶ意欲を喚起して能力を伸ばせたか。	B	B	
	(3) 高大連携教育や国際理解教育の活用から、美術工芸教育・普通科教育を深化させたか。	B	B	
	(4) 情報教育や図書教育の充実を図り、豊かな人間性を育成できたか。	B	B	
生徒指導	(1) 全教職員の共通理解と実践により、基本的生活習慣の定着を推進できたか。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的考察、自主的解決を促す取り組み ・指導方針についての共通理解の深化と協働体制の確立
	(2) 地域の特色を生かした特別活動等の充実を図り、生徒の自主性や自律性を育成できたか。	B	B	
	(3) 教育相談活動を充実し、多面的な生徒理解を深め、いじめ等も含めた問題の早期発見・対応を実践できたか。	B	B	
進路指導	(1) 進路意識を高め、キャリア発達課題の達成を目指し、自己実現に向けて努力する態度を育成できたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次からの系列的な指導體制の確立と共通理解 ・協働的取り組みの推進
	(2) 自己理解を深め、個性や能力・適性に応じて進路目標を設定する力を育成できたか。	B	B	
	(3) 個に応じた進路開拓や情報収集・発信を図り、進路実現を達成させられたか。	B	B	
健康・安全指導	(1) 保健教育活動を充実し、個々の生徒の状況を的確に把握し、生命を大切に、主体的に心身を鍛える生徒を育成できたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の参画を伴う、健康教育や安全教育の推進
	(2) 校内外の清掃美化や施設の保全をとおして、環境教育を行いながら、快適な教育環境づくりを推進できたか。	B	B	
	(3) 全教育活動をとおして安全教育を徹底させ、適切な生活行動ができるよう指導できたか。	B	B	
組織運営	(1) 日常的・組織的な連携が緊密化し、協働体制を確立できたか。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・前年踏襲にない業務の点検 ・業務分担の改善を伴う協働体制の確立 ・主導を明確にしつつも学校全体で取り組む意識の共有 ・情報セキュリティの見直しと意識共有
	(2) 学校課題の明確化・共有化をふまえ、前例踏襲に陥らずに工夫改善をはかり、各取組が前進したか。	C	C	
	(3) 危機管理意識が醸成されたか。	B	C	

研 修	(1) 専門性と資質能力の向上のため研修活動を充実させ、授業改善や実践力が向上したか。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・研修時間確保の工夫 ・個別研修における、研修内容の共有 ・個々の研修意識の高揚
	(2) 服務規律保持・倫理観について、意識は向上したか。	B	B	
	(3) 個々の教員のスキルは向上したか。	B	C	
保護者、地域住民等との連携	(1) 保護者や地域に対して本校の取り組みを十分に情報発信することができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の基本方針の確認と共有
	(2) 保護者や地域からの意見を聴き、積極的に学校改善に役立てることができたか。	B	B	
	(3) 保護者との連携を図りながら、充実したPTA活動が展開されたか。	B	B	

4 自己評価における特記事項

- ・協働体制の確立。分掌主導であっても、取り組みは学校全体で行う意識で、情報共有を確実にして、全員が全ての取り組みに参画意識を持つ
- ・工芸実習などにおける、ケガへの対応指導の早期の実施
- ・長期休業前の各種文書の発送方法や発送時期の見直し
(急ぐものと急がないものの分類も含む)
- ・生徒に対応する時間の確保。面談期間の設定についての審議
- ・生徒対応における、担任の機動力確保の工夫
- ・工芸科の技術研修や技術継承の検討
- ・準備期間も織り込んだ、年間行事の作成と共有